

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第43週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第43週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第43週（令和4年10月24日から令和4年10月30日まで）

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.56人と前週（2.61人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.08人と前週（1.17人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.72人と前週（1.47人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！”について取り上げました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱とともに全身倦怠感や咽頭炎などの症状を引き起こす細菌感染症で、好発年齢は就学前後（4歳～7歳）の小児です。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う予防対策の徹底や、休校等の影響により、この2年間の報告数は大きく減少していましたが、令和4年第43週（10月24日～10月30日）の川崎市における報告数は、定点当たり1.08人となりました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、早期の適切な抗菌薬治療により、リウマチ熱や急性糸球体腎炎等の続発症を防ぐことができます。お子さんに発熱や咽頭痛以外に、莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）等の症状がある場合は、早めに医療機関を受診し、処方された薬はしっかり飲み切りましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

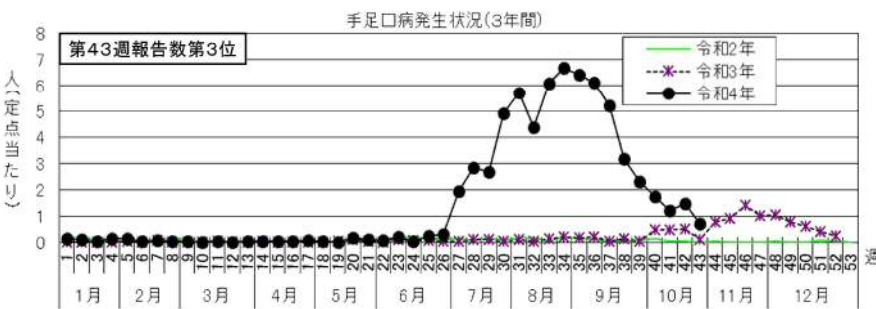
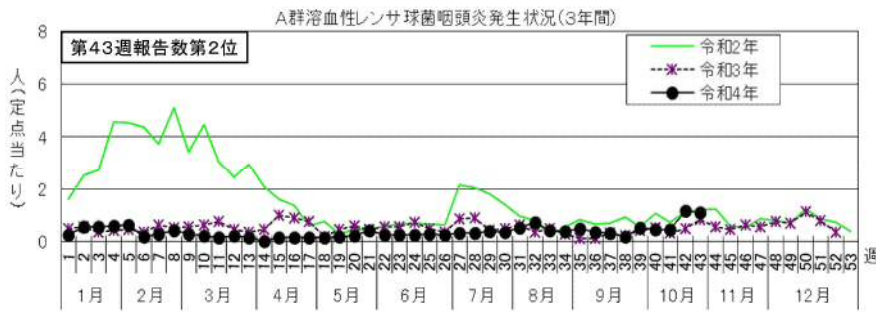
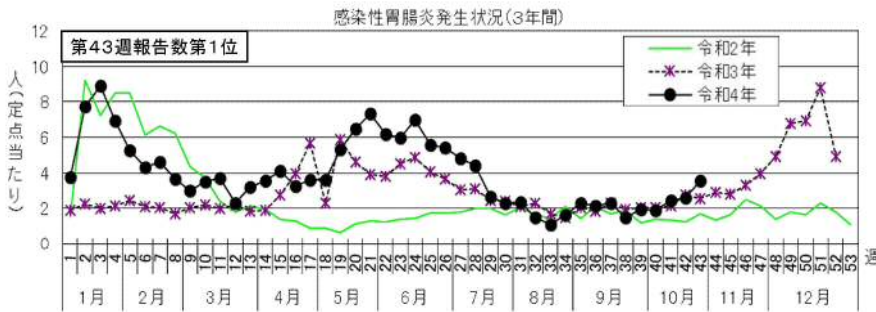
令和4年10月24日（月）～令和4年10月30日（日）〔令和4年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.56人と前週（2.61人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.08人と前週（1.17人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.72人と前週（1.47人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱とともに全身倦怠感や咽頭炎などの症状を引き起こす細菌感染症で、好発年齢は就学前後（4歳～7歳）の小児です。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う予防対策の徹底や、休校等の影響により、この2年間の報告数は大きく減少していましたが、令和4年第43週（10月24日～10月30日）の川崎市における報告数は、定点当たり1.08人となりました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、早期の適切な抗菌薬治療により、リウマチ熱や急性糸球体腎炎等の続発症を防ぐことができます。お子さんに発熱や咽頭痛以外に、莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）等の症状がある場合は、早めに医療機関を受診し、処方された薬はしっかり飲み切りましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体：A群溶血性レンサ球菌

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、
莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）、体や手足に小さく紅い点状発疹

予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(5年間)

